

令和3年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県央会場

科目 ⑨子どもの遊びの理解と支援

- ◆ 生活には遊びが入っているという話を聞いて、今まで児童と接する中でそういった考えを持って言葉掛けをしたことがなかったので、考え方が変わったような気持ちになりました。自分のことを思い返すと小学校の頃の遊びはとても大切な思い出で、今の自分に大きな影響を与えていると思います。子どもたちに、本当に楽しかった、あんな体験が出来て良かったと思ってもらえるような遊びの環境を職員の方々とつくっていったらなと思いました。
- ◆ 遊びの大切さ、重要性、必要性を改めて実感しました。実際、日々の学童の遊びの時間では、楽しいことには時間を忘れて熱中して遊びますが、逆に「何をして遊んだらいいかわからない」と話してくる子どももいます。その子どもたちも自主的に楽しめるよう遊びをサポートしていくことも指導員の仕事だなと思いました。指導員としての援助の仕方がいろいろある中で、自分だからできる援助を誠意と愛情をもって続けていきたいなと思います。
- ◆ 子どもたちの生活の中でいかに遊びが大切かということを学んだ。例えば、子どもたちが外遊びをせず、いろいろな菌に触れる機会が少ないということが免疫系の異常に繋がる。子どもの遊びと仲間関係や環境はとても重要だが、現代は親の手伝い、異年齢との交流、地域の行事への参加などを通して遊ぶ＝学ぶことが簡単にはできなくなっている。私たち支援員は学童での生活の中での学びを少しでも豊かにしていけるよう支援していきたい。
- ◆ 本科目では「コミュニケーション能力の低下」、「子どもたちのライフハザード」がとても参考になった。自分が日頃感じていたことをより具体的に、危機感を持って伝えてくれたからだ。では、私ができることは何だろうと考えてみた。まずは目を見て挨拶、正しい言葉で伝えること。子どもたちとの会話から健康的な生活（食事、睡眠）を送っているか確認すること。早速できることから始めていきたいと思う。
- ◆ 子どもたちと一緒に遊ぶのが楽しいという単純な理由から始めた仕事ですが、本講で子どもにとっての遊びの重要性のほか、遊びは学びと渾然一体で、生き抜く力を養うために非常に大切だということや支援員としての多様な援助のあり方を学ぶことが出来てとても参考になりました。また、子どもたちの要望にはどんな場面でも対応できるように、私自身の遊びの引き出しの充実に努め、一緒に遊び、学び合いながら成長を見守りたいと思います。